

# 加西市の現状総括

## V. 次世代を支える基盤づくり

### V-1 都市基盤の整備

#### 【課題】

中心市街地の都市機能の充実と農村地域の魅力を最大限引き出す観点から、適切な土地利用の規制と誘導が必要です。

市街化区域においては空き地や農地が多数存在し、旧市街地を中心に人口の減少や空き家、空き店舗の増加が見られます。既成市街地の未利用地活用を促進させることが重要な課題となっています。市街化調整区域では、人口の維持、活力の保持を図りつつ、周辺環境等を考慮した適切な土地利用の誘導が課題となっています。また、都市計画区域外においては緑豊かな自然環境の維持、形成に努めることが課題です。

中心市街地の整備が進められた北条駅周辺では、公共交通などによる交通結束機能の強化や商業集積など、都市の魅力をより一層高めることが求められています。

また、市街化区域内には狭あい道路が多く、避難路や救急車両の進入に十分なスペースを確保できない区域もあるため、ハードとソフトの両面から多様な防災機能を高める施策が必要とされています。

河川水路はコンクリート整備が多く、流速の増加による洪水等が懸念されます。下水道事業は多額債務を抱え、高齢化や経済的理由により水洗化率の伸びは鈍くなっています。水道事業は今後の計画的な設備更新が課題となっています。少子高齢化、人口減少の社会を迎え、都市施設の機能統合など今後の設備更新にはダウンサイジングの考え方も必要です。

#### 【チャンス】

大型商業施設の進出にともない、市外や周辺部から中心市街地への新たな集客の流れが生まれています。西高室地区では区画整理事業による新たな住宅地整備に向けた動きがあります。

市街化調整区域の規制によって、中心市街地は四方を緑に囲まれ、歩ける範囲で暮らしができるコンパクトなまちを形成しています。

三木宍粟線を挟んだ旧市街地と新たな商業施設が隣接する都市構造は、他市にも類が少ない特徴を持つため、中心市街地と歴史的まちなみが共存する都市の魅力づくりに期待が寄せられます。

### V-2 都市環境の創出

#### 【課題】

市域においては地権者が土地を手放さないなどの理由で、不動産の流動化や住宅建築が十分に進んでいない傾向にあります。ストック住宅の活用を図るとともに、住まいに関する情報ネットワークの構築を進めることが課題となっています。

また、土地区画整理事業により整備された宅地への住宅立地を促進するほか、特色ある学校環境、通勤通学の利便性の向上といった都市の魅力づくり、安全・安心で暮らしやすい地域づくり、福祉のまちづくりなど総合的な住環境の質的向上が課題となっています。

子どもたちの安全な遊び場所となる公園は、遊具の補修など良好な環境を維持するとともに、地域の参画など地域住民に開かれた活用が求められています。

旧市街地に見られる伝統的民家や古い街並みの保全・活用などの景観保護や環境保全については地域全体の取り組みとして進めることが課題となっています。

### 【チャンス】

市街地中心部においては、クスノキやハナミズキなどの街路樹が緑の回廊を形成し、電線地中化の効果と相まって、加西市らしい良好な都市景観を形成しています。

加西インター周辺の花植え運動、宇仁郷のコスモス街道、北条鉄道沿線の菜の花畑など、市民主体で緑化や花づくりに取り組み、市の文化として根づかせていく地道な活動も行われています。都市景観やまちづくりへの配慮に対して、住民の意識は高まりつつあります。

## V-3 交通基盤の整備

### 【課題】

市民の7割が、公共交通利用が不便な地域に生活しています。公共交通の利用者は非常に少なく、自動車に依存した交通体系となっています。家族の送迎に頼る移動制約者も増加しており、公共交通が不便で困っている市民の現状から考える必要があります。

コミュニティバスの利用者は年々減少しています。赤字負担の維持だけでは先細りの結果、いずれ廃線を余儀なくされます。利用者の利便性を考え、乗らない人が利用できる運行形態の見直しが求められます。そのためには乗車整備だけでなく利用者の意識に働きかけていくことも必要です。

北条鉄道は施設の計画的な整備が必要です。車両や設備の安全確保を行い、各駅舎の整備も急がれます。交通結末点に着眼し、地域住民同士や地域住民と観光客をつなぐコミュニケーション施設としての活用も整備を行う上においては考えていく必要があります。

### 【チャンス】

公共交通に関する法定協議会が設置され、市民、事業者、行政が一体となって公共交通網を総合的に再編整備する体制が構築されています。

高齢者等の潜在的な公共交通機関利用者の掘り起こしが見込まれています。ボランティア駅長をはじめ北条鉄道を地域で支える市民の活動が大きく注目されています。また、鉄道ブームによる北条鉄道の乗降客増加が期待されます。環境面でもモーダルシフトなど公共交通の利用が見直されています。地域交通を地域の力で支える新たな運営手法が検討されています。

## V-4 情報化の推進

### 【課題】

都市部に比べインターネットの活用は進んでいません。インターネットから情報を受信できる人は増加していますが、有効に活用し、世界に向けて発信できる市民は限られています。

また、行政が提供するサービスの効率性や利便性を高めるには、広く普及している携帯電話などモバイル機器への対応も進めていく必要があります。高齢化や人口の減少が進む中で地域の活力を高めるには、企業はもちろん医療・教育・ボランティア等の現場においてもITを活用し、生産性や情報発信力を向上することが必要です。

市役所内においてはITを行政の効率化や地域の活性化に十分活かせていないのが現状です。市WEBサイトの充実による情報発信と双方向コミュニケーション機能の拡充、申請のオンライン化など行政サービスの利便性向上、ITの活用による行政事務の効率化など多くの取り組みが必要とされています。

ITはすでに一般的なものになっているため、ハードウェアの整備を前提とした捉え方は適切ではなく、個々の地域課題の解決に、いかにITを活用するかが問われています。

### 【チャンス】

団塊の世代を中心とするコンピュータを使える退職世代が、情報発信者として能力を地域に還元することが期待されています。市域のほぼ全域で光ファイバーを利用した超高速インターネット接続環境が整うことで、ハード面での整備課題は、現時点でほぼ解消されます。

加西防災ネットなど、緊急情報を一斉配信する体制も整備されています。市WEBサイトは自主制作による融通の良さがあり、アクセス数は増加し続けています。引き続き魅力的な情報発信を展開することで、アクセス数の一層の増加と、広報・公聴におけるより重要な役割を果たすことが期待されます。